1. MATXS-J50 について

MATXS-J50 は JENDL-5 の中性子反応サブライブラリ、熱中性子散乱則(TSL)サブライブラリと光子-原子サブライブラリから作成した DOORS 等の多群放射線輸送計算のための MATXS 形式多群断面積ライブラリー式である。格納されているライブラリの群構造は中性子 200 群、 γ 線 42 群と中性子 48 群、 γ 線 20 群の 2 種類である。

2. MATXS-J50 のディレクトリ構造について

MATXS-J50のディレクトリ構造は以下の通りである。

MATXS-J50

- README_jp.pdf: 本ファイル

│- J5TSL-MATXS. x1sx : TSL の MATXS ファイルの説明

|- j50.200.42.n250 : JENDL-5 から作成した 250K での中性子 200 群、γ線 42 群 MATXS ファイル

|- j50.200.42.n300 : JENDL-5 から作成した 300K での中性子 200 群、γ線 42 群 MATXS ファイル

|- j50.200.42.n600 : JENDL-5 から作成した 600K での中性子 200 群、γ線 42 群 MATXS ファイル

|- j50.200.42.n900 : JENDL-5 から作成した 900K での中性子 200 群、γ線 42 群 MATXS ファイル

|- j50.200.42.n1200 : JENDL-5 から作成した 1200K での中性子 200 群、γ線 42 群 MATXS ファイル

|- j50.200.42.n1800 : JENDL-5 から作成した 1800K での中性子 200 群、γ線 42 群 MATXS ファイル

|- j50. ts1. 200. 42 : JENDL-5 から作成した TSL を入れた中性子 200 群、γ線 42 群 MATXS ファイル (温度点は TSL に入っている温度 点全て。Si02 は Si と 0 の混合ファイルになっているため作成せず)

|- j50.48.20.n250: JENDL-5 から作成した 250K での中性子 48 群、γ線 20 群 MATXS ファイル

|- j50.48.20.n300 : JENDL-5 から作成した 300K での中性子 48 群、γ線 20 群 MATXS ファイル

|- j50.48.20.n600 : JENDL-5 から作成した 600K での中性子 48 群、γ線 20 群 MATXS ファイル

|- j50.48.20.n900 : JENDL-5 から作成した 900K での中性子 48 群、γ線 20 群 MATXS ファイル

|- j50.48.20.n1200: JENDL-5 から作成した 1200K での中性子 48 群、γ線 20 群 MATXS ファイル

|- j50.48.20.n1800 : JENDL-5 から作成した 1800K での中性子 48 群、γ線 20 群 MATXS ファイル

|- j50. ts1. 48. 20 : JENDL-5 から作成した TSL を入れた中性子 48 群、γ線 20 群 MATXS ファイル (温度点は TSL に入っている温度点全 て。Si02 は Si と 0 の混合ファイルになっているため作成せず)

3. MATXS-J50 ファイル作成方法

MATXS-J50の作成条件は以下のとおり。

- 群数:中性子 200 群+ガンマ線 42 群、中性子 48 群+ガンマ線 20 群
- 荷重関数: VITAMIN-E (中性子)、1/E spectrum (ガンマ線)
- ルジャンドル展開次数: P₆
- 背景断面積: 10¹⁰, 10⁴, 10³, 300, 100, 30, 10, 1, 0.1, 10⁻⁵
- 温度 : 250, 300, 600, 900, 1200, 1800 K (TSL データ以外。TSL データは 入っている温度全て)
- 熱中性子の上限エネルギー:10 eV
- KERMA 係数:運動学的手法で算出(ACE-J50と同様)

MATXS-J50 の作成方法を以下に記す。

A) 付録1に記載した修正をした FRENDY (20241030) と JENDL-5 のために修正した NJOY2016.65

(https://rpg.jaea.go.jp/download/ace_lib/acej50/20221205/NJ0Y2016.6 5.modification.r2.pdf 参照) を使い、JENDL-5の中性子反応サブライブラリから中性子のACEファイル(温度 250K、300K、600K、900K、1200K、1800K)を作成。この処理での入力(300K、Fe56の場合)は以下のとおり。

最初の FRENDY の入力

```
reconr
20 22
'pendf tape for jendl-5 n_026-Fe-056'/
2631 3 0 /
.001 /
'n_026-Fe-056 from jendl-5'/
'processed with the frendy nuclear data processing system'/
'see original jendl-5 tape for details of evaluation'/
0/
```

```
broadr
       20 22 23
       2631 1 0 0 0/
      .001 /
      300 /
      0/
      stop
   次の NJOY の入力
      moder
       20 -21
       moder
       23 -25
      heatr
       -21 -25 -26 0 /
       2631 5 0 0 0 2 0 1 /
       302 318 402 443 444 /
      moder
       -26 24
       stop
   次の FRENDY の入力
      gaspr
        20 24 28
       acer
        20 28 0 29 30
        1 1 1 .20/
       'n_026-Fe-056 jendl-5 frendy njoy 2025.5'/
        2631 300 /
        1 1 /
       stop
B) 作成した ACE ファイルから GENDF ファイルを FRENDY で作成。この処理での
   入力(300K、Fe56の場合)は以下のとおり。
   FRENDY の入力
      mg_neutron_mode //Process mode
```

C) NJOY2016.65 の GAMINR モジュールで JENDL-5 の光子-原子ライブラリからガンマ線の GENDF ファイルを作成。この処理での入力(300K、Fe56 の場合)は以下のとおり。

```
reconr

30 31

'pendf tape from jendl-5'/

2600 1 0 /

.001 0. 7 /

'n_026-Fe-056 from jendl-5'/

0/

gaminr

30 31 0 32

2600 10 3 6 0

'42-group photon interaction library'/

-1 0 /

0/

stop
```

D) NJOY2016.65 の MATXSR モジュールで、B) で作成した中性子の GENDF ファイルと C) で作成したガンマ線の GENDF ファイルを結合した MATXS ファイルを作成。この処理での入力(300K、Fe56 の場合)は以下のとおり。

```
NJOY の入力
moder
```

```
27 - 28
matxsr
-28 32 33/
 15 'jendl-5 frendy'/
2 4 1 1/
 'jendl-5 n 026-Fe-056 300K frendy'/
'n
'g'/
200 42/
'nscat' 'ng' 'gscat' 'ntherm' /
              2
                   1 /
         1
    1
         2
              2
                    1 /
'fe056' 2631 2600/
 stop
```

4. MATXS-J50 の TSL ファイルに関する注意点

- TSLの MATXS ファイルには KERMA、損傷エネルギー生成断面積は入っていない
- TSLの SiO2 は Si と O の混合ファイルになっているため作成していない
- TSL の MATXS ファイルで、MATXSR で対応しているサーマルデータ (Table 1 参照) 以外の名称は mt249、mt250 に設定 (詳細は J5TSL-MATXS. x1sx 参照)
- TSL データでグラファイトは C12 のみ、UN の N は N14 のみ

 MT Description MTDescription Name Name 221 free free-gas scattering Zr in ZrH incoherent 235 zrzrh hh2o 222H in H₂O 236 Zr in ZrH coherent zrzrh\$ H in polyethylene (CH₂) incoherent poly 223O in BeO incoherent obeo 237 poly\$ 224 H in polyethylene (CH₂) coherent O in BeO coherent obeo\$ 238 hzrh 225 H in ZrH incoherent O in UO₂ incoherent 239 01102 226 H in ZrH coherent hzrh\$ O in UO₂ coherent 240 ouo2\$ 227 Benzene incoherent benz U in UO_2 incoherent 241uuo2 D in D₂O dd2o 242U in UO₂ coherent uuo2\$ graph C in graphite incoherent 229 243Al metal incoherent al C in graphite coherent 230 graph\$ 244al Al metal coherent Be metal incoherent 231 be 245Fe metal incoherent 232 Be metal coherent be\$ 246Fe metal coherent

Table 1 Thermal Material Names

5. MATXS-J50 ライブラリを使う上での注意点

Be in BeO incoherent

233

bebeo

- MATXS-J50 ライブラリを DOORS 等のコードで使うためには、TRANSX コード(高度情報科学技術研究機構 RIST から入手できます)で計算モデルに対応した多群ライブラリを作成しなければならない。
- TRANSX コードはバイナリ形式の MATXS ファイルしか扱うことができないので、

MATXS-J50 ライブラリを TRANSX コードに付属の bbc コードで予めバイナリ形式 の MATXS ファイルに変換しておく必要がある。そのためのシェルスクリプト @bcd2bin の例を以下に示す。

#!/bin/csh

1n -s \$1.m text

\$HOME/transx/bbc < \$HOME/transx/bcd2bin >! \$1.out

mv matxs \$1

rm text

\$HOME/transx/bcd2bin の中身は以下

-1 1 0 1 1

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

MATXS ファイルのあるディレクトリで、例えば

@bcd2bin fe056

を実行すると、テキスト形式の fe056.m ファイルからバイナリ形式の fe056 ファイルを作成することができる。

あるディレクトリにあるテキスト形式の MATXS ファイルを全てバイナリ形式の MATXS ファイルに変換したい場合は、以下のシェルスクリプト@bcd2bin.all が 使える。

#!/bin/csh

foreach file (*.m)

if (-e text) then

rm text

endif

echo \$file

set NUC = `echo \$file | sed -e s@"\footnote m"@@g `

echo \$NUC

1n -s \$NUC.m text

\$HOME/transx/bbc < \$HOME/transx/bcd2bin >! \$NUC.out

mv matxs \$NUC

mv index \$NUC. index

rm \$NUC.out

rm \$NUC.index

rm text

end

● TRANSX コードにはいくつかバグが報告されており[#]、以下のパッチは必須である。

*d up14.4

maxds=5+12*(n1+1)

*d transx.1364
if (nwds+nk.ge.maxw) go to 230
*d transx.2298
if (nwds+nk.ge.maxw) go to 215

#: C. Konno, et al., EFFECT OF IAEA PATCH FOR TRANSX2.15, ANS RPSD 2018 - 20th Topical Meeting of the Radiation Protection & Shielding Division of ANS, Santa Fe, NM, August 26 - 31, 2018, on CD-ROM, American Nuclear Society, LaGrange Park, IL (2018). -->この参考文献を入手できない場合は、konno.chikara@jaea.go.jp までメールをお送りください。

6. MATXS-J50 の入手先

https://rpg.jaea.go.jp/main/ja/MATXS-J50/

7. MATXS-J50 の参考文献

レポート、論文は作成中。

JENDL-5 については以下の論文参照。

(1) O. Iwamoto, et al., "Japanese Evaluated Nuclear Data Library version 5: JENDL-5," J. Nucl. Sci. and Technol., 60 pp. 1-60 (2022).

8. 問い合わせ先

konno. chikara@jaea. go. jp 029-282-5483

9 付録1

MATXS-J50 作成のため、FRENDY (20241030) に以下の修正を行った。

frendy/UnresoUtils/ProbabilityTableCalculator.cppの12行目
const Real8 ProbabilityTableCalculator::min_xs_coef = 1.0E-2;
を
const Real8 ProbabilityTableCalculator::min_xs_coef = 1.0E-1;
に変更。

frendy/UnresoUtils/ProbabilityTableCalculator.cpp の 2369 行目 xs_val[j][k] = min_sig_val; の後に

if(k == fission_xs && fis_flg == 0)

10. 付録 2

matxsr. f90 の 463 行目

今回の作成とは関係ないが、NJOY2016.65のバグ(複数温度 MATXS ファイルのバグ、核分裂スペクトルのバグ)を特定し、修正した(NJOY のみで JENDL-5の MATXS ファイルを作成する場合にはこの修正は必要)。修正箇所は以下のとおり。

```
matxsr.f90の15行目
integer::mult=2 ! used for counting 8-byte entries
の後に
real(kr)::a0(200000)
を追加。

matxsr.f90の445行目
character(16)::word
の後に
integer::i
を追加。
```

```
ngen8=0
の後に
   do i=1,200000
   a0(i)=0.0
   enddo
を追加。
matxsr.f90の2217行目
   a(icdat-1+jg2)=b(irinp+1z+ik-1)
を
   a(icdat-1+noutg+jg1)=b(irinp+lz+1)-a0(icdat-1+noutg+jg1)
   if (iref.eq.0) a0(icdat-1+noutg+jg1)=b(irinp+lz+1)
に修正。
matxsr.f90の2222行目
   a(icdat-1+noutg+jg1)=b(irinp+lz+1)
を
   a (icdat-1+noutg+jg1) = b (irinp+1z+1) - a0 (icdat-1+noutg+jg1) \\
   if (iref.eq.0) a0(icdat-1+noutg+jg1)=b(irinp+lz+1)
に修正。
groupr. f90 の 5718 行目
   if (mfd. eq. 6. and. mtd. eq. 18) nz=nsigz
を削除。
```